

学長2期目後半の主な取り組み

(2019年9月2日～2021年9月1日)

- : 2期目前半までに始めた事業
青字: 2期目前半までに行った内容
黒字: 【2期目後半の進展】
(注) 2期目前半までに完成した事業、継続中だが特記すべきことがない事項は掲載していません。

- : 2期目後半に開始した事業 **【2期目後半新規】**
黒字で記載

★: 他学ではあまり行われていない、独自のアイデアに基づくユニークな事業や先進的な事業

1. 教育

- ★ **臨床英語日本一を目指した英語教育改革**

【2期目後半の進展】英語で行う医学教育の推進

英語で学ぶ医学・看護学アドホック委員会の設立、活動開始

臨床英語講座weekend intensiveコースに120名が参加

「第1回 英語で学ぶ医学・看護学WEBセミナー」2021年9月10日ミシガン大学からの免疫学講義決定

- **関西公私立医科大学・医学部連合の結成: 連合によって奈良医大単独ではなし得ない事業の達成**

【2期目後半の進展】卒業試験の共通化本格実施、コロナ下における教育方法や式典などの情報交換

- ★ **海外や国内の有名研究機関での学生実習(リサーチクラークシップ)**

【2期目後半の進展】ミシガン大学での研究成果: 5回生の論文(共著)がCell誌(IF=36.216)に、5回生と4回生の論文(共著)がNature microbiology (IF=14.3)に掲載。国立感染症研究所での研究成果: 6回生の論文(共著)がThe Journal of Clinical Investigation (IF=12.282)に掲載。

- ★ **大学祭の学外実施(イオンモールなど)など特徴ある大学祭を学生と検討**

【2期目後半の進展】MBT難病克服キャンペーン映画祭活動を大学祭と共同で行うことが決定

- ★ **入学式や白衣授与式における保護者説明会等(保護者とのコミュニケーションの充実によるマッチング率の向上)**

【2期目後半の進展】保護者説明会、医学科6年生の全保護者に対する学長書簡(卒後教育における奈良医大の魅力の伝達)内容の充実

保護者への働きかけは以下に示すマッチング結果に好影響を及ぼしていると推察

2020年4月からの研修医マッチング: 奈良医大定員充足率100%(全国1位)、奈良県の充足率100%(全国1位、マッチング史上初めて県単位で100%)

2021年4月からの研修医マッチング: 率は87.3%と低下したが、奈良県で前期研修を行う医師の数は昨年より8名多い129名と過去最大

【2期目後半の進展】医学教育機関別認証評価

2015年度医学教育分野別認証評価結果に基づき、継続的に教育改革を実践し、2020年には医学教育機関別認証評価を受け認証された。

- **【2期目後半新規】新型コロナ禍の中での教育**

新型コロナ禍の中で徹底した感染対策のもとに最善の医学・看護教育を実践

- ★ **【2期目後半新規】アントレプレナーシップ育成**

「新しい事業分野を切り開くために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さ」を意味するアントレプレナーシップを持った学生を育成する目標を掲げ、教職員に起業を奨励

MBT特命教授(矢野博文・ダイソー創業者、森雅彦・DMG森精機社長)講義

- ★ **【2期目後半新規】反転授業の導入促進**

授業前に自宅学習し、授業では演習や議論を行う授業形態を一部で採用

- **【2期目後半新規】感染症教育の充実の基礎を構築**

文科省補助金(感染症医療人材育成事業、1億136万円)に採択

感染症センターの教授選考手続きを開始

- **【2期目後半新規】臨床数学の開講(教養教育)**

高校からの延長としての数学を臨床に即した内容に改変

- **【2期目後半新規】医療人育成機構の創設**

★ **良き医療人のシームレスな一体的育成のための組織を創設**

- 【2期目後半新規】メンター制度の設計
学生の学習支援、自己学習力啓発を目的にメンター制度を導入
- 【2期目後半新規】シミュレーターを用いた高度な臨床教育
最新型のシミュレーターを設置、臨床実習で使用開始

2. 研究

●【けいなんなRC(文科省・JSTの大型プロジェクト)にオーガナイザーとして参加し、各研究所と共同研究
【2期目後半の進展】文科省・JSTから川崎RC(慶応大学中心)や神戸RC(理化学研究所中心)を上回る高評価を獲得

●【優秀な研究者の育成支援、科研費獲得支援、若手・女性・医療スタッフの研究支援

【2期目後半の進展】論文数の増加

2018年の335本に対し、2019年は495本と1.48倍に増加

【2期目後半の進展】科研費獲得額の増加

科研費獲得額は新規継続合わせて、2019年度は213件(2億8460万円)、2021年度は253件(3億3770万円)と顕著な増加

	年度	2021	2020	2019	2018
新規・継	件数(件)	253	229	213	194
続の合計	金額(千円)	337,700	323,500	284,600	271,200

●【2期目後半の進展】奈良先端科学技術大学院大学との連携進展

奈良先端大との交流会や共同研究助成を通じて連携活性化を行った結果、共同研究の件数が増加

●【2期目後半の進展】奈良県と県内市町村の事業に貢献

奈良県と県内の保健・医療・介護事業に関する計画の策定や調査研究に貢献

●★【2期目後半新規】研究成果の社会還元のため研究者の起業を支援

2021年7月MBT微生物学研究所株式会社設立(奈良医大発ベンチャー)

●【2期目後半新規】基礎研究医プログラム(厚労省)

臨床研修における基礎研究医プログラム(厚労省)に応募し採択

一般の募集定員枠とは別枠で2名増員(全体で40名枠)が決定(科研費獲得額が評価された。)

●【2期目後半新規】厚生労働省の女性医療職等の働き方支援事業(研究支援)に応募し採択

●【2期目後半新規】先端医学研究支援機構設置

研究活動における総合的な支援を行うため、研究力向上支援センター、医学研究支援センター、産学官連携推進センターからなる先端医学研究支援機構を設置。新たにURA、専門技術職員を配置

●【2期目後半新規】大学の研究や技術が軍事目的に使用されることのないよう、安全保障輸出管理制度を導入

●【2期目後半新規】MBTやコロナ関係は総合欄に記載

3. 診療

●★【全国から医師を集める制度(外科マスター、ドクターNなど)

【2期目後半の進展】外科マスター医が7名に増加

●【2期目後半進展】働き方改革に向けたタスクシフト・シェア

専門的な知識と技術に裏付けられた高い医療水準の担保とタスクシフトに向けて、特定行為研修修了看護師や麻酔補助ME等の高いスキルを持つ医療職の養成を充実

働き方改革と関連した年休の5日取得の実行

●【2期目後半新規】臨床系講座の新設

・糖尿病・内分泌内科学講座の設置

奈良県の糖尿病と内分泌医療充実のため設置

・がんゲノム腫瘍内科学講座の設置

がんゲノム医療供給体制の強化のため設置

・リハビリテーション医学講座の設置

新専門医制度の19基本領域の一つであるリハビリテーション科を司る講座の設置

●【2期目後半新規】地震対策と臨床医の環境整備

老朽化した臨床医学研究棟の設備をA棟へ移転し、当直室、会議用オープンスペースやセキュリティードア設置等により臨床医学研究室の環境を整備

●【2期目後半新規】ジェネリック使用率を70%以上にする中期目標達成

●【2期目後半新規】コロナ病床の確保

最大150床のコロナ用病床を確保、奈良県のコロナ対策のリーダーとして、特に重症患者の受け入れ(14床)に注力。その結果m3.comのアンケート調査において、奈良県内の機関別貢献度では第1位、大学病院別では全国第2位の貢献度評価を獲得

●【2期目後半新規】上記の他の新型コロナウイルス感染症関係は総合欄に記載

4. 総合

●★ MBT構想（医学による日本創生モデル）関係

以下の大部分は奈良医大MBT研究所(所長:細井裕司)とMBTコンソーシアム(理事長:細井裕司)の共同事業です。

【特記1】会員企業が200社を突破

2021年7月、東京海上日動火災保険、旭化成、三菱マテリアルが加わり、奈良医大の下に集まっているMBT 会員企業が200社を突破し、206社となった。会員企業の本社所在地は21都道府県に分布しており、東京65社、大阪は59社、奈良32社となっている。医科の単科大学にすべての業種から200社以上が集まる世界に例がない組織に発展した。

【特記2】【2期目後半新規】コロナ克服活動

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、感染症部会の強化
- ・MBT 会員企業からサージカルマスク、エアロゾルボックス、オゾンガス消毒器、医療用防護服、ハンドクリームなど多数の寄付を受ける。
- ・大和ハウス等と共同で、MBT 感染症外来ユニットを開発、全国に販売
奈良市医師会が採用、その他全国で10以上の設置と引き合い
- ・スマホアプリでコロナ感染症患者の見守りを目指した「i-SMART-MBT」の臨床試験開始
- ・「MBT コロナ感染対策」のモデル店を指定、NHKニュース等で紹介
- ・ビッグイベントにおけるコロナ対策相談が多数。日経新聞主催イベント等
- ・MBT コロナ克服キャンペーンの一環として、MBT ビジネス活性化 WEB セミナーを開催
- ・MBT コロナ克服キャンペーン奈良を開催
- ・奈良ホテルでコロナ対策模擬立食パーティーを開催
- ・コロナ対策を企業・団体に指導した記録「新型コロナウイルス感染対策の取り組み」(小冊子)を作成、配布

【特記3】【2期目後半新規】難病克服活動

難病克服キャンペーン開始

- ・MBT 難病克服キャンペーンの協賛企業が8社に増加(2021年7月現在)
- ・MBT 難病克服支援WEB セミナー(9月4日)と映画祭(2022年1月8日)を計画、実施準備進行中

【その他の活動】【2期目後半新規】

- ・感染症部会など社会ニーズに対応した5つの部会を新設し、全10部会体制の確立
- ・クオール薬局全国約600店舗のデジタルサイネージで奈良医大・MBTの社会貢献活動を常時放映
- ・スマートコミュニティ部会が、河川水を利用した地域冷暖房システムの検討
- ・MBT 東京大会、奈良県企業立地セミナーで荒井知事とともにMBT 活動紹介
- ・奈良医大発ベンチャーMBT リンク社がヘルスケアサービスを開始
- ・「MBT・万博への挑戦」をテーマに講演会開催、奈良医大と共同で万博テーマ提案
- ・奈良医大と凸版印刷(MBTコンソーシアム理事企業)の連携研究「病院・介護現場における負担の軽減」NICT委託研究
- ・奈良医大、奈良先端大、MBT コンソーシアム通信部会連携で奈良医大卒業式を動画配信
- ・MBT 研究グループ制度の成果:奈良医大研究者の研究がAMEDに採択
- ・SafetyNet/MBT(スマートフォンを用いた最新型ナースコール)を5社と共同で開発、発表
- ・「病院快適環境プロジェクト」の一環で、集中治療室と一般病棟に疑似窓を設置
- ・MBT 活動の全国展開進む:北海道沼田町と連携協定を締結、高齢者見守り支援事業
- ・MBT 活動がm3.comで紹介
- ・ACT京都創立7周年記念フォーラムでMBT の取り組みを紹介
- ・2021年仕事始め式で全学に対し、「奈良医大発ベンチャー企業を立ち上げの勧め」を発信。MBT コンソーシアムが伴走支援を行う。
- ・MBT コンソーシアムの伴走支援で奈良医大発ベンチャー企業「MBT 微生物学研究所株式会社」が創業
- ・MBT ロゴマーク審査委員会(委員長:渡辺同志社大学名誉教授)によるロゴマークの認定商品が13品目に増加(2021年7月20日現在)
- ・MBTとけいはんなRC推進協議会による医工連携の推進
- MBT コンソーシアム・けいはんなRCジョイントセミナー開催
- ・MBT 学専攻の大学院生が博士(医学)を取得

・奈良医大の教室と企業のマッチングの増加:参加教室数23,参加企業数66、累計マッチング数90回

●新型コロナウイルス感染症関係

●【2期目後半新規】新型コロナウイルス感染症に対する奈良医大の体制整備と貢献

2020年4月1日新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ本部長に就任。その下に病院部会、教育・研究部会、先端研究部会、記録部会(NHKとの協業)を組織。MBT感染症部会との連携を構築。すべての情報を本部にあげる仕組みの構築、また、すべての情報をコロナ対策本部ニュースとして全学に発進し、情報の一元化を達成

●【2期目後半新規】奈良医大、MBTコロナ克服キャンペーンの全国展開

対策本部会議において、「新型コロナウイルス感染症防止対策」の基本方針として、3密回避より直接的な3感染ルート(接触、飛沫、エアロゾル)遮断を決定、全国に啓発

●【2期目後半新規】MBT コロナ対策・企業相談分科会(メンバー:三井住友銀行、日本生命、損保ジャパン、日本経済新聞、大和ハウス、クオール、インデックスコンサルティング、南都銀行)と共に啓発活動を全国展開

・オゾンによる新型コロナウイルス不活化とその条件を世界で初めて発表

・「柿渋による新型コロナウイルス不活化」(世界初)を記者発表

製品化企業を公募、48社から問い合わせがあり、具体的提案書が提出された19社と製品化検討、最終的に4社が製品化して発売済み

・光触媒のコロナ不活化効果を確認(世界初)

・市販のお茶のコロナ不活化効果を確認(世界初)

●【2期目後半新規】東大寺との共同啓発活動

東大寺修二会(お水取り)支援、狭川普文別当、笠原敬感染症センター長と啓発活動を全国発信

●【2期目後半新規】コロナ下の教育

遠隔授業施行のための設備投資、学生援助、MBT通信部会の協力の下でWEBの活用

●総合種々

●★**拡大奈良医大:相手先費用負担により橿原外に奈良医大連携大学院・研究所などを設置(奈良県3カ所、大阪府1カ所、東京1カ所)**

【2期目後半の進展】奈良医大MBT研究所分室を北海道沼田町に開設

●**未来への飛躍基金:学生、教職員の能力を最大限に引き出すための各種施策に使用**

【2期目後半の進展】2019年12月集計で過去最高の寄付申し込み額208,737千円を達成。種々の事業に活用、高度医学シミュレーター購入

●**学内広報の活性化**

【2期目後半の進展】

理事長・学長からのお知らせの学内一斉メール: vol.13~26の14回

学報における理事長・学長からのメッセージ: vol.70~77の8回

MBTニュースレター: 第26号~100号の75回

MBTジャーナル: vol.6~8の3回

●**積極的な情報発信、広報の充実(NHKテレビなど)**

【2期目後半の進展ならびに新規】マスコミ対応

・記者会見を開くなど、マスコミ広報に注力。媒体は新聞、テレビ、YouTube、メディカルノートを通じたヤフーニュースなど。MBT関係だけで、評価期間中に64回の報道

・積極的にNHKや日本経済新聞、毎日新聞等の記者と関係を構築。NHK全国放送(おはよう日本など)、新聞報道に寄与

例として、旧知のNHKディレクターとの話し合いから、NHK記者2名が2020年4月から約3ヶ月間奈良医大に常駐し、取材した。その結果、NHK全国放送(NHKスペシャル、プロフェッショナル)で奈良医大の活動が紹介された。

・メディカルノート(ヤフー関連企業)との連携により、メディカルノートと奈良医大の共同記事がヤフー上で検索上位になる仕組み構築

●【2期目後半新規】けいはんなRC推進協議会

文科省・JSTの大型プロジェクトである「けいはんなRC」のレガシィを引き継ぐための協議会が設立され会長に就任

けいなんの工学的研究力と奈良医大の医学の力の融合を目指した活動を展開

●【2期目後半新規】万博への参加

2025年の大阪・関西万博で奈良医大の存在感を示すことを目的に「けいなんなRC推進協議会」と共同で万博協会への働きかけを実施。石毛万博事務総長に面会し会場の見守り等について提案

5. その他(法人経営、資質の発揮度等)

●★毎月の知事面談

【2期目後半の進展】内容の深化

知事、副知事、医療政策局長と緊密な連携

●★外部評価のため有識者委員会の設置 (委員長:松本紘 理化学研究所理事長)

【2期目後半の進展】コロナのため書面で委員会を開催

●【2期目後半新規】本学の基本方針の策定

本学は、将来にわたって「主たる大学」として発展することを基本方針とする。

役員会等は基本方針に基づいて、種々の施策を決定し、実行する。

(令和2年4月22日)

●【2期目後半新規】各教室の自己目標設定と自己評価の大学への提出

各教授に対し、教室員と大学当局に対して教室の目標を明確にするため、教室の目標と自己評価の大学への提出を義務づけ、同時に教室員に対しても教授の考えを伝えるように要請

●【2期目後半新規】新教員評価システムの導入

教室主任の評価を重視する新システムの導入。自己の教室だけでなく大学への貢献を重視

●【2期目後半新規】提出書類の期日厳守を徹底

●【2期目後半新規】新型コロナウイルス感染症対応手当の支給

役員以外の全教職員に対して1人23万円(フルタイム勤務者)を支給

●【2期目後半新規】新A棟の高さ制限の緩和への取り組み

今後計画される新A棟を効率の良い病院にするため、高さ制限の緩和を目標にしたまちづくりプロジェクトの創設を役員会で決定